

令和4年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立直方高等学校

自己評価		学校運営計画(4月)		評価(総合)
学校運営方針		教育基本法及び福岡県の教育目標並びに「鍛ほめ福岡メソッド」に則り、平和で民主的な国家及び社会の形成者にふさわしい意思と実践力を備え、創造性豊かな人材の育成をめざすとともに、志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心を持つ、たくましい生徒を育成する。特に文武両道を志し、校訓である、礼節を重んじ、努力を惜みず、理想を追求する人材の育成に努める		
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標	
入学志望者数は昨年度より増加したものの、現状を真摯に受け止め、より一層の広報活動はもとより、充実した教育活動を提供し、本校の良さをアピールしていく。 コロナ禍において、生徒が自主的・主体的に活動する学校行事や部活動が減少し、異学年の交流が激減した。上級生が下級生に教え合う、学び合う中で培われる「直高のよき伝統」の継承が困難ではあった。特に令和4年度は体育祭や文化祭など学校行事を経験していない生徒が最上級生になるため以前の資料の収集や中心となる生徒会の生徒のリーダーシップ育成に努めた。 オンライン学習は各家庭の通信環境の差が推進に支障をきたしていると考えらる。そのため、ICTの活用促進のために専用の教室を常設し、その活用を図っていく。 生徒の多くが第1希望の進路実現を成しえたが、学習の個別最適化をめざし、個に応じたきめ細やかな指導で学力の伸長を図るようとする。		生徒の個性・適性・能力・進路希望等を把握し、きめ細かい学習指導で学力を高める	学力向上のための授業の工夫と改善 ・特色ある教育課程を編成し、生徒一人一人の個性を生かした進路の実現に向けて、学校と地域が一体となったサポート体制の構築 ・観点別評価の効果的な運用	
		学習、生活両面の基本的習慣の確立と自己管理能力の向上、規範意識の高揚に努める。	直高生としての誇りを高める生徒指導の充実 ・基本的な生活習慣(時間厳守・挨拶・美化活動の励行)の確立 ・活力ある特別活動と部活動の推進(目的・目標の明確化)	
		奉仕活動に関心をもち、社会的貢献をしようとする態度を育成する。	進路意識の高揚と希望進路の実現 ・体系的なキャリア教育の充実 ・多岐にわたる幅広い進路希望に対応した丁寧な個別指導 ・個人の進路目標や学力に応じた課外授業の充実	
		教職員相互の信頼と生徒との心の繋がりを深め、あらゆる機会を通して、生命と人権を大切にす学校づくりを推進する。	自他の生命を尊重する人権教育の推進 ・教育活動全体を通じた人権教育や情報モラル教育の推進 ・生徒情報の共有と教育相談体制の充実、特別支援教育の推進 ・いじめを決して許さない意識や態度の育成 ・学校の情報を積極的に発信し、保護者や地域の信頼に応える学校づくりを推進	
		学校の情報を積極的に発信し、保護者や地域の信頼に応える学校づくりを推進する	・学校ホームページ等広報活動の充実 ・直方市と連携し、地元の魅力を発信するなど、地域と連携した学びの充実 ・直方FSP(フロンティアスピリットプログラム)をとおして、地域活性化や生涯スポーツ社会の実現に向けて全力で取り組む人材を育成	
		防災教育、安全教育の徹底を図り、事故・災害の防止に努める	地域社会の特性や防災科学技術等についての知識を蓄え、減災のた知識と行動力の育成 ・防災教育、安全教育の徹底を図り、事故・災害の防止の徹底 ・防災教育をおし、災害から身を守り被災した場合でもその後の生活を乗り切る能力の育成 ・すべての教育活動をおし「生きる力」を涵養し、能動的に防災に対応できる人材の育成	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教科指導	基礎学力の向上	観点別評価に向けた学習指導方法を確立する。 ICT機器を活用した授業の工夫と改善を図る。 スタディサプリを活用し、課題等の配信など学習指導の工夫を図る。		
	学習環境の整備	使用している机や椅子を点検し、必要な新しい机、椅子の整備するなど学習環境を整える。 新課程のカリキュラムを精査し、進路ごとに特化できる編成への改組を図る。 統合型校務支援システムをスムーズに運用し、生徒への還元を図る。		
生徒指導	いじめ防止	積極的ないじめの認知に向けて取り組む。(特に部活動では、部で抱え込まず些細な事でも報告、組織的な対応。) いじめアンケート、学校生活アンケート等で気になる生徒とは確実に面談を行うとともに、生徒理解に努め日常の変化に気付く。 いじめ問題対策委員会の定例化(月1回)を行う。		
	学校行事の活性化	新たな生活スタイルやコロナ感染症対策に応じた学校行事の検討、及び実施。 生徒会執行部からの新たな取組の実施。 学校行事に生徒会組織を積極的に参画させる。 進路ガイダンスやセミナーの開催については、オンラインで参加する際のノウハウを、教育の情報化推進委員会と連携し確立させる。		
進路指導	適正なキャリア発達の促進	進路DPを実際の動きと合わせて改訂し、より社会の変化に対応したものをとする。 時事問題を扱う小論文指導の教材導入を検討する。 土曜講座や課外授業の講座編成を各学年、教科と連携し生徒の実態に即して、柔軟に変化させられるようにする。		
	第一進路志望実現の支援	早期に就職希望者を招集し、今年度の状況とこれからの展望や指導の流れを理解させ、自己の将来像と結びつけさせる。 昨年度の3学年のデータを過去と比較して分析し、各教科と連携して、生徒の伸ばすべき部分を焦点化して教科指導の支援を行う。		
環境保健	生徒支援の充実	生徒情報を教員間で共有し、適切な支援を行う。 コーディネーターとの連携を図り、情報を共有し必要な手立てを行う。 外部講師を招いて研修会等を充実させる。		
	健康意識の向上	学校生活の中で感染症予防の意識を高める取り組みを行う。 換気、手指消毒、シールドを使用した飛沫予防、黙食など、新しい生活様式に努める。 防災訓練を実施し危機管理能力を高め、事故や災害が起こった時の行動や知識を身につける。		
情報図書	図書活動の活性化	「子ども読書の日」を活用し、読書の喜びを伝え、読書に興味を持たせる。 季節ごとのテーマに応じた「テーマ展示」やイベントを行い図書館利用者増加を目指す。 図書館便りや、新刊案内を定期的に発行し、生徒に興味をもたせる。 各領域と連携し、時期に応じた研修会を実施し、学校全体の教育力の向上を目指す。		
	教育の情報化の推進	キャリアアップ研修や校外研修の紹介と奨励。 研究紀要を通して研修の成果を共有し、記録に残す。		
人権教育	人権に関わる実態把握と、その課題の明確化	「振り返りシート」や人権学習後の感想を活用し、日常生活での人権課題を把握し、指導に生かす。 いじめのアンケートに関する(特に学校生活アンケート)の記述内容の把握を確実に行う。 ホームルーム活動において、ポイントを絞ったワークシートや講話の内容を検討する。		
	修学支援委員会による情報共有から、指導・支援につなぐ	不登校生徒の欠課時数を早めに情報共有し、保護者支援の観点からも、家庭との連携を深める。 支援の方法に結び付けるために、関係機関やSC、SSWとの連携を深める。 授業担当者や学年など学校全体に広げるための情報共有や支援の方法を模索する。		
企画広報	広報活動の活性化	直高生の活動や魅力を、中学生や保護者に効果的に伝えられるような広報素材を準備する。 直方高校での成長を伝える一貫したイメージを意識し、学校案内等を作成する。 中学校や進路相談事業等で、魅力ある直方高校をアピールするためのよりよい方策を検討する。		
	ホームページ運用の活性化	ホームページや39メールを通して、迅速にかつ正確な情報発信を目指す。 学校行事や部活動や授業中の様子など、生徒の生き生きとした姿を伝えられるような素材を精選する。 職員が連携して情報を速やかに発信できるようしくみを整える。		
第1学年	希望進路を高め置き、努力することにより自らをスキルアップさせる	現在の自分を見つめ直し、『将来何をしたいのか』を早期に方向づけさせる。 進路目標を実現するための目標を高く設定し、実現のためのロードマップを確立させる。 努力することの大切さを実感させるために、様々な進路課題を与える。		
	自己表現力の育成	様々な問いかけに対して、まずは『自分事』と考えさせる。 授業中はもちろん日常生活の対話の中でも、リアクションすることの大切さを感じさせる。 積極的にリアクションすることにより自己表現力を育成させ、進路目標実現に備える。		
第2学年	授業、行事等の学校生活全体を通じて主体的に学ぶ態度を育成する	探究活動において生徒の活動がスムーズに行われるように配慮する。 希望進路の決定を早めさせ、目標設定を明確にさせる。 行事等において早めに準備して仕事内容や期日を意識して計画的に行動させる。		
	授業、行事等の学校生活全体を通じて協働的に学ぶ態度を育成する	探究活動においてクラスを越えてテーマ毎にグループを作らせ、活発に活動できるように配慮する。 希望進路の決定を早めさせ、同じ進路に進む生徒同士が協力して学習できる雰囲気作りをする。 職員間で生徒の情報を共有し、効果的な指導ができるよう配慮する。		
第3学年	第一進路希望の実現、基本的な生活習慣の徹底	個人面談等を通じて、個の特性に応じた進路指導・進路選択をさせる。 目標達成に向けての意欲喚起と教員支援の環境づくりの徹底。 成人としての基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、自己管理(健康面、精神面)ができるように支援を行う。		
	最上級生としての責任と誇りを自覚させる	最上級生として、直高フェア、体育祭等でのリーダーシップの発揮を促す。 最上級生として、下級生の手本となるように指導する。 伝統を引継ぐとともに新たな直方を作り上げる。 学年、学校をリードする生徒の育成に努める。		
スポーツ科学コース	人間力、自立的活動力の育成	各種目のスキルだけでなく、各競技を通して、何を身につけさせるか、将来を見据えた人間力の育成を図る。 ホームルーム活動や、授業、部活動の様々な場面で、スポーツを通して、想像力や道徳心の育成を図る。		
	小中学校対象、体力テスト補助の実施	小中学生の体力テスト補助を通して、指導者育成を図る。 日頃の教育活動全体を通じて、学んだことをアウトプットさせる。 生徒一人ひとりの指導力、リーダーシップの向上を図る。		

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

.
---

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
評価項目以外のものに関する意見	